

すことにしました。この2人はここから空知山に入って狩りをしたいと言うからです。さて、ここから断崖だんがいによじ登り、800メートルほど進むと峠に出ました。この辺りはカバとトドマツばかりで、ここが東西の分水嶺ぶんすうれいになっています。

東南の方角に進もうと、4キロほど峠から下ってみたら、なんということでしょうか、そこは昨夜泊まった空知川の川岸でした。これには大変驚おどろいてまた元の方角に戻り、しばらく峰伝みねづたいに行きました。右の方に行けばシノマンサロ口、左の方に行けばリノシケサロに出ますが、次第しだいに木々もまばらになり、ここからは南西の方角に佐幌岳さほろだけ、西には夕張岳ゆうはりだけ、その後ろには沙流さるの山々が見え、左を見れば

十勝連山、オプタテシケ山などが雲間から峯みねが突き出ている様子が見えます。

少し進んで左側に800メートルほど下ると川幅5メートルほどのノシケサオロの沢に出て、それに沿って進んでいきました。山をひとつ越え、バナクシサオロ川に出、そこからさらに川伝いに下って、夕方、川幅14メートルほどの佐幌川の本流に到着し、南岸に越えたところで野宿をしました。

この辺りは雪も非常に薄うすくなっていました。「今日の行程はどう考えても1日で来られることができるはずがなかったのに、皆が『もうすぐサロだ』と心を奮ふるい立たせて頑張がんばったので、順調じゆんちように進むことができましたね」などと、



十勝連峰

十勝岳としかただけ、美瑛岳びえいだけ、富良野岳ふらのだけ、トムラウシ山などの山々が連なる。



佐幌岳

アイヌ語で「下方の川」という意味の「サ・オロ・ベツ」が名前の由来。現在はスキー場として親しまれる。